

●お出かけの際のお困りごとや、「あったらいいな」と思う設備・環境など

	ご意見
1	バス停の日よけ雨よけ
2	嶺南地区に、行政および関係団体がない。福井市(ほぼ坂井市)から毎日通っている方もいる。負担が多い、そのこともあって担い手がいないのもあるのではないかと感じてしまう。 また、例えば大雨で今庄と敦賀が通行止めになったら業務に支障がでて後始末も大変と聞く。関係団体へ嶺南地区に支部を建てるよう県が勧めるべきではないか？支援金を出す。
3	県外で土日や朝夕のラッシュ時に公共交通機関に乗車すると混雑していても優先座席は空いている場合がほとんどだが県内では健常者で満席である。 白杖でヘルプマークを付けていても座れないことが多い。学校や企業でのインクルーシブ教育、研修を推進、強化して欲しい
4	交通機関の普及
5	防災アナウンスが健聴者でも聞きづらい。もう少し聞こえやすくしてもらえるとまさかの時に助かるかと思う。
6	緊急時のサイレンや放送はとても聴こえにくいので、代替方法を検討していただきたい。
7	移動に関する制度・仕組みの改善
8	災害の時にいろんな情報がほしいのでアイドラゴンを各自に購入してほしい。 ※アイドラゴン…「目で見るテレビ」聴覚障がい者が情報収集等に使用
9	公園のトイレがバリアフリーになるとよい
10	車椅子やベビーカー、バギーで移動しやすい歩道&トイレマップ
11	でかけたいなと思った時に、いつでも気軽に電車を利用して出かけることができるとうよい。今は、電車の駅に階段があり駅利用に困る駅がある。県民にとってのみでなく、北陸新幹線で来県された車椅子観光者にとっても、えちてつ、福鉄各駅のバリアフリー化が進んでいることは観光地巡りをしやすくなる。おもてなしの一つだと思う。
12	越前鉄道のあわら湯の町駅は年内にスロープ工事完了と聞いているが、ほかの観光地、例えば永平寺等の有名観光地の最寄駅から構わないのでスロープ等バリアフリー化してほしい。片道だけスロープ化などの対応は、車いす利用者としては無駄に時間がかかって困る。
13	実証実験など行う際には、車いす利用者のことも考えてほしい。
14	ユニバーサルデザインの遊具がある公園が増えるといい。 公民館事業、生涯教育活動、図書館活動等に、身体や知的障がい者でも気軽に参加できるような多様性のある活動をもっと入れてほしい。
15	自転車用の道路を増やしてほしい
16	障がいのある方が集まれる居場所がほしい。 ピアサポーターが活躍できる場所作ってほしい。
17	ユニバーサルシートが設置された、身障者用トイレを整備してほしい。 トイレにある程度の広さも無いと、バギーに乗せてまずトイレに入れないので、広く当事者の意見を聞いて作って頂けたらと思う。
18	福井県内でも公共施設のカームダウン・クールダウンスペースがあれば安心して外出できる方が増えると思う。

●ヘルプマークに関するご意見・エピソード

	ご意見
1	公共交通機関にヘルプマークをつけていると優先座席の健常者は知らぬふりなので、優先座席付近に周知を徹底して欲しい。車内周知されていない場合がほとんど
2	知的障がいのある本人の中には、自分の思いを他人に伝えられない人がいる。ヘルプマークの裏に支援内容を記入したシールを貼った場合、その部分が表向きになることへの抵抗があり、付けない人（家族の思い）もいる。そこで、ヘルプマークを裏表の2枚方式にして、その間に個人情報（氏名・連絡先・支援内容等）を記載したヘルプカードを入れられる形に変えてはどうか。
3	精神疾患と発達障がいを持つ自分が、付けてよいものかどうか悩む。どういった人が付けてよいのか、付けているのか、対象がよく分からない。
4	ヘルプマークは持っているが、息子に付けさせるか迷う時がある。（ニュースで詐欺にあったなど聞く）
5	ヘルプマークをもっと取得しやすいようにしてほしい。例えば、事業所や学校などでも取得できるようにする等。
6	どこでもらえるのかが周知されていないため、福祉施設等でも配付できるようにすればよいのではないか。

●その他、誰もが幸せに暮らせる共生社会の実現に向けた、日ごろの暮らしの中におけるご意見やご質問

	ご意見
1	福井県は健常者にとって、幸福度日本一ではあるが、障害者にとっては日常生活や就労、県民意識において非常に暮らしづらい県であると感じています。 障害者にとって暮らしやすい社会はすべての人にとって暮らしやすい社会である県民意識の醸成が必要と感じています。
2	大野市内のバリアフリーを進めてほしい。 車いすだと居酒屋の入口が狭かったり、カラオケは階段が必要だったりします。 みんなが住みやすい街にしていけたらよいと思います。
3	障がいのある方がどんどん地域と関われる機会を創りたいです。
4	訪問介護員として支援にあたっています。利用者さまと横並びで歩ける歩道が少なく、歩道内に設置されている電信柱など障害物が多いように感じています。
5	令和7年7月13日の新聞に、政府の高齢者シェアハウス整備に関する記事が掲載されており、敦賀市と若狭町が関心を寄せているとのこと。 障がい者の親が高齢となり、介護が必要となった時に、障がいのある子をグループホームに入れなければならないが、不安が付きまとうという話をよく聞く。 もし、高齢者の親と障がいのある子が同じ建物にいれば、自由に会うことができ、互いに安心感をもって生活できるという共生社会のメリットがあると考えます。 福井県においても、各市町と連携して至急検討をお願いしたい。
6	災害の時に聴覚障がい者に対してどう思いますか。
7	視覚障害者が安全に歩行できるよう、歩道の整備、破損した点字ブロックの点検整備を要望する。
8	障害のある人が当たり前前に街中や歩道を歩けるようになると良い。 雨が降ったら車いすの人は傘をさして外出できない気がする。
9	当事者の声をタウンミーティングなどで集めて終わりにするのではなく、福井県、市町、民間事業者、そして地域に暮らす県民のみなさんが一緒になって、声をどう活かすかを考え続ける仕組みがとても大切だと思います。 声を出すことが無駄ではないと思える仕組みがあれば、当事者の方も安心して発言でき、共生社会の実現につながると考えます。
10	支援を必要とする方の地域での暮らし。特に家族を離れた幸せな暮らしを実現するためには、公的サービスだけでなく、地域住民の方による、安全の見守り、余暇時間を過ごす仲間作り、食事作りの手伝い等々、地域の人々の力が頼りになると思う。みなさんの隙間時間を少しでも、彼らの支援に活かせる仕組み作りや、コーディネートする方がいるとよい。
11	公共交通機関の接客対応が悪くなってきた。特にはぴラインや京福バスの苦情を聞くようになった。

●その他、誰もが幸せに暮らせる共生社会の実現に向けた、日ごろの暮らしの中におけるご意見やご質問

	ご意見
12	<p>ハートフルパーキング、障がい者用の駐車スペースが足りない。 不正利用がまだ見られるほか、利用許可証を交付されていない方が使用している（周知が足りない）。 車いす利用者は入り口近くの場所より車椅子を出せるスペースを必要としている。横幅のスペースはもちろん、スロープ車は長さが必要。行政にお願いしたいのは各商業施設等に一般の駐車枠を2枠使って駐車できるように促してほしいです。利用者には現在発行されているハートフルパーキング利用許可証を車の見えるところに提示するルールを、県民には理解を求める周知をしてほしい。店舗的には新たな出費もないので合理的配慮として受け入れてもらえるのではないかと。福井県がロールモデルとなって全国に広めていきましょう。</p>
13	<p>例えば建物入り口の段差について、車いすやベビーカー利用者には障壁となるが、目が不自由な人には段差があることで目印となり、必要なケースもある。みんなが暮らしやすい環境を整えるのはなかなか難しい。</p>
14	<p>精神障がいを持ち、集団になじめず疲れやすい自分の働き場所がない。障がいがある生き方のモデルが知りたくてピアサポートを利用したいが、利用の仕方が分からない。周知してほしい。</p>
15	<p>知り合いに、子どもが難病で、食べられる食品が高価で困っている人がいる。 薬や子ども医療のように、何か支援はないか。</p>
16	<p>子供が小児慢性特定疾患(PKU)。身体的には障がいはないが、食事はみんなと同じ物は食べることができずネットで購入している状況。食費は私たちとは別で3万以上かかることもある。今後大きくなるにつれてもっと食費が増すと考えると生活に支障が出る。他の市町村では補助が出るところもあり、少しでもいいので補助していただくと助かる。</p>
17	<p>ピアサポーターとして活躍する場がほしい。</p>
18	<p>学校との連携も強い、地域のまちづくり協議会の中に、重い障がい、医療の必要な人たちも積極的に参加してもらい（直接参加が難しければオンラインミーティングなども導入するなどして）、普段地域になかなか知られていない方々も、地域イベントなどに参加しやすくなるとういなど感じている。 特に、地域防災などは、重い障がいや医療の必要な方々をセンターにして進めて行くと、高齢者他、どんな状態の方々も包摂されると感じている。</p>
19	<p>視覚で障害者手帳を持っている方へ情報発信する手段が何かないのか。 身体障害者手帳を作成しても、症状が変わらなければ申請に来るのは1度だけで、障がい者が自からサービスや給付について問合せをすれば情報を得ることができるが、問合せ先を知らずに、連絡ができていない人もいるのではないかと。 具体的には、市が発送する市民の方への通知の中から、視覚障害者の方を対象に、チラシ等（〇〇の給付があり、申請先は〇〇などの情報。視覚障害者福祉協会が作成してくれる？）を同封できないのか。</p>
20	<p>車椅子利用者が、スーパーで買い物をする場合、車いすに取り付けることができる専用カートがある店が少なく、買い物かごを膝の上に載せて買い物することとなり、その重量で太ももに負担がかかり、思うように買い物ができない状況。商品の陳列や支払いなども含め、思いやりの気持ちを持って対応してほしい。</p>

●その他、誰もが幸せに暮らせる共生社会の実現に向けた、日ごろの暮らしの中におけるご意見やご質問

	ご意見
21	<p>障害者教育を行ってほしい。 先日、福井市で障害者の会議があり障害者団体から福井市が作成した黄色の防災スカーフについて苦情が寄せられていた。 「恥ずかしいので付けたくない」、「個人情報への考慮が無い」等。 私は、これは災害時に健常者からの支援が必要な時に付けるもので、支援が不要ならつける必要はないものであり、平時は公的サービスなどで守られています、災害時には市民の支援が必要になることを障害者も自覚すべきだと考える。</p> <p>発達障害でも、特に高校の進学コースで発達特性の本人受容を進めることに、学校も保護者からも反対が大きいようだ。 障害者とみられたくないという感情は理解できるが、これは逆差別に他ならないと考える。 障害者とみられたくないが、困った時には支援が欲しいというのは我が儘であるし、本当の障害者教育とは、障害者も支援が必要な高齢者も障害を持つことに恥じない行いをするのであって、その意味で最も欠けているのは障害者への教育ではないか。</p>
22	<p>共生社会の土台作りは子どもの頃から始まっていると感じる。子どもたちが大人になった時に、周りにいろんな人がいて助け合いながら過ごすためには、小さい頃からの相互理解がキーとなり、教育と福祉がつながりあえるようなシステム構築が必要だと感じる。</p>
23	<p>障害者の法定雇用率は上昇し、企業の理解も広がっていると感じます。しかし、上層部と現場で温度差があり、雇用率達成が目的化してしまう場面もあります。 「誰もが幸せに働ける社会」に向け、数字ではなく、働きやすく職場に定着できる環境づくりに力を入れてほしいと願います。</p>
24	<p>一般就労が難しい方は就労継続支援A型・B型で働いていますが、今年10月から最低賃金が69円引き上げられる予定です。 事業所にとっては運営負担が増すことが予想され、企業からの受託や収益向上の努力も限界があります。急激な最低賃金上昇への影響を和らげるため、行政や自治体で何らかの支援・対策を検討しているか、お聞きしたいです。</p>
25	<p>補聴器をつけている中度難聴の保護者です。現在では中軽度難聴児は18歳まで補聴器の購入などは補助により3割負担となっていますが、18歳以降は全額負担になってしまいます。しかし補聴器のない生活は困難で、そのような子たちが全額負担になってしまうのはいかがなものかと思えます。手帳がないのでなんの補助も受けられない中度難聴者の負担はかなり大きいものになってしまうのではないのでしょうか？高齢者の難聴と同じくくりでは違うのではないのでしょうか？子供たちの明るい未来のためになんとか補助をお願いいたします。</p>